

IPCCシンポジウム 産業界の取り組みとIPCCへの期待

2017年1月26日

経団連環境安全委員会

国際環境戦略WG座長

手塚宏之

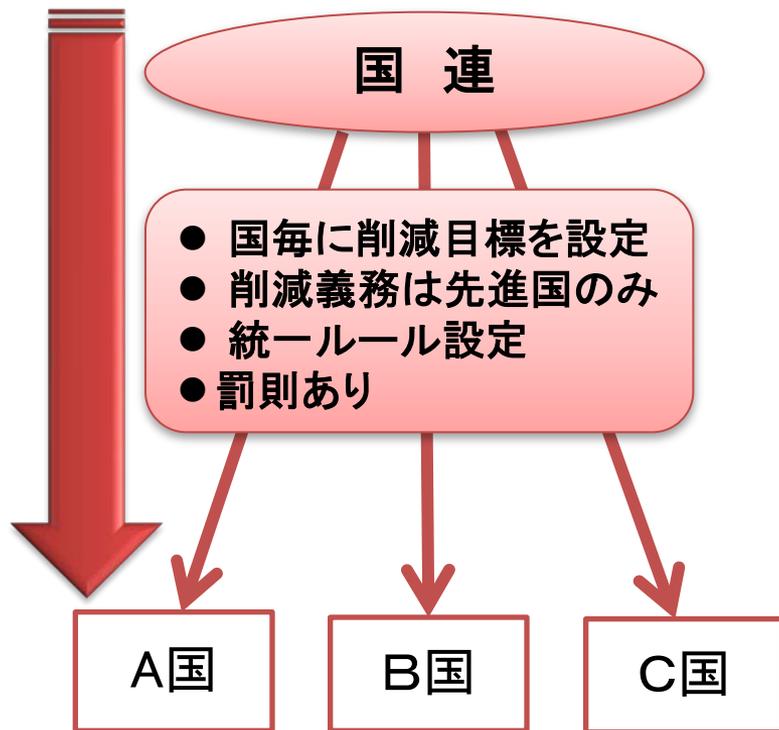
パリ協定の構造

京都議定書

パリ協定

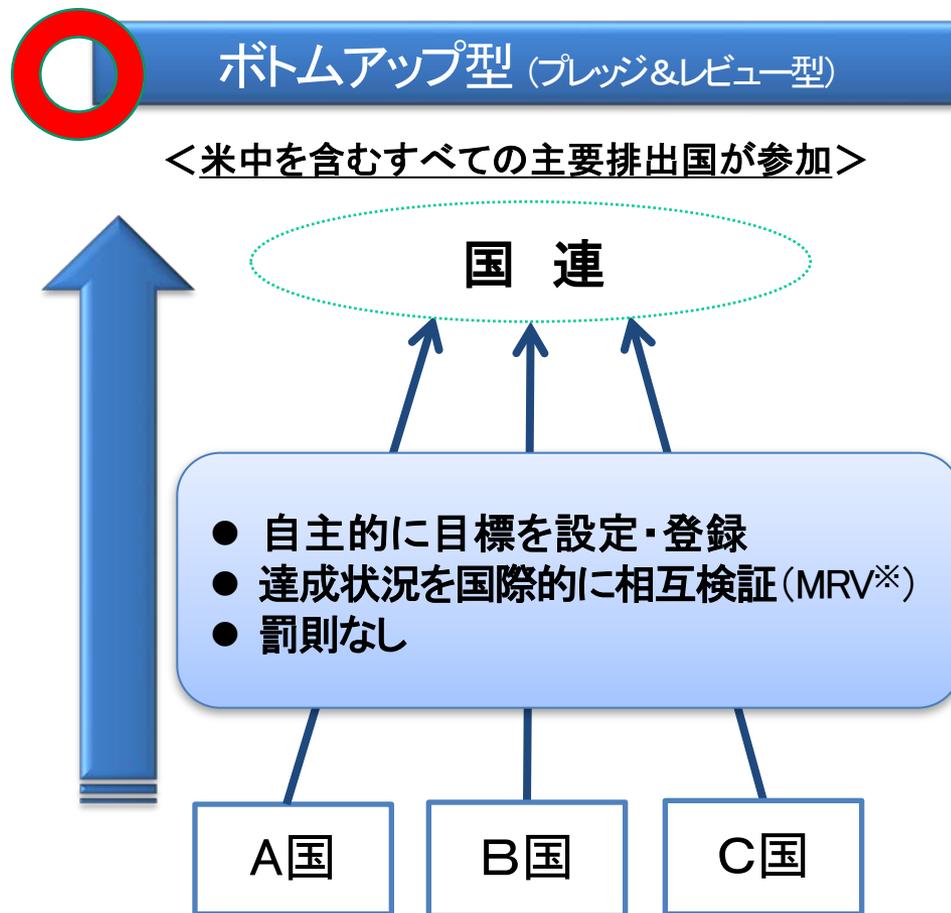
✖ **トップダウン型** (京都議定書)

<米国や、中国などの途上国は参加せず>



○ **ボトムアップ型** (プレッジ&レビュー型)

<米中を含むすべての主要排出国が参加>



経団連「自主行動計画」と同じ構造

経団連 低炭素社会実行計画

フェーズ I
2020年に向けた取組み

55 業種
が参加

フェーズ II
2030年に向けた取組み

40業種が
策定

第1
の柱

国内事業活動からの排出抑制

2020年目標
の設定

2030年目標等
の設定

第2
の柱

省エネ製品等
による貢献

取組み強化

第3
の柱

国際貢献
(途上国支援等)

取組み強化

第4
の柱

革新的技術
の開発

取組み強化

4 本 柱
全 体 で
地 球 規
模・長期
の温暖化
対策に貢
献

P D C A の 充 実

2050年の世界の温室効果ガス半減へ

排出権：京都議定書時代の思考法

目標年(2030年)における

$$\boxed{\text{世界排出量}} = \Sigma \text{先進国排出量} + \Sigma \text{途上国排出量}$$

基準年排出量

－基準年比削減量

－海外クレジット

(＝途上国での削減量)

BAU排出量 (＝GDP×原単位)

－INDC削減量

＋海外クレジット

(＝先進国の協力による削減量)

京都時代は途上国免責⇒途上国での削減量を先進国に移転

途上国も目標を掲げるパリ協定下ではクレジットの先進国移転は慎重になる？

パリ協定下の国際協力は？

目標年(2030年)における

世界排出量 = Σ 各国排出量



現状排出量

+ 目標年のBAU排出増(減)

- 今後の努力による削減量

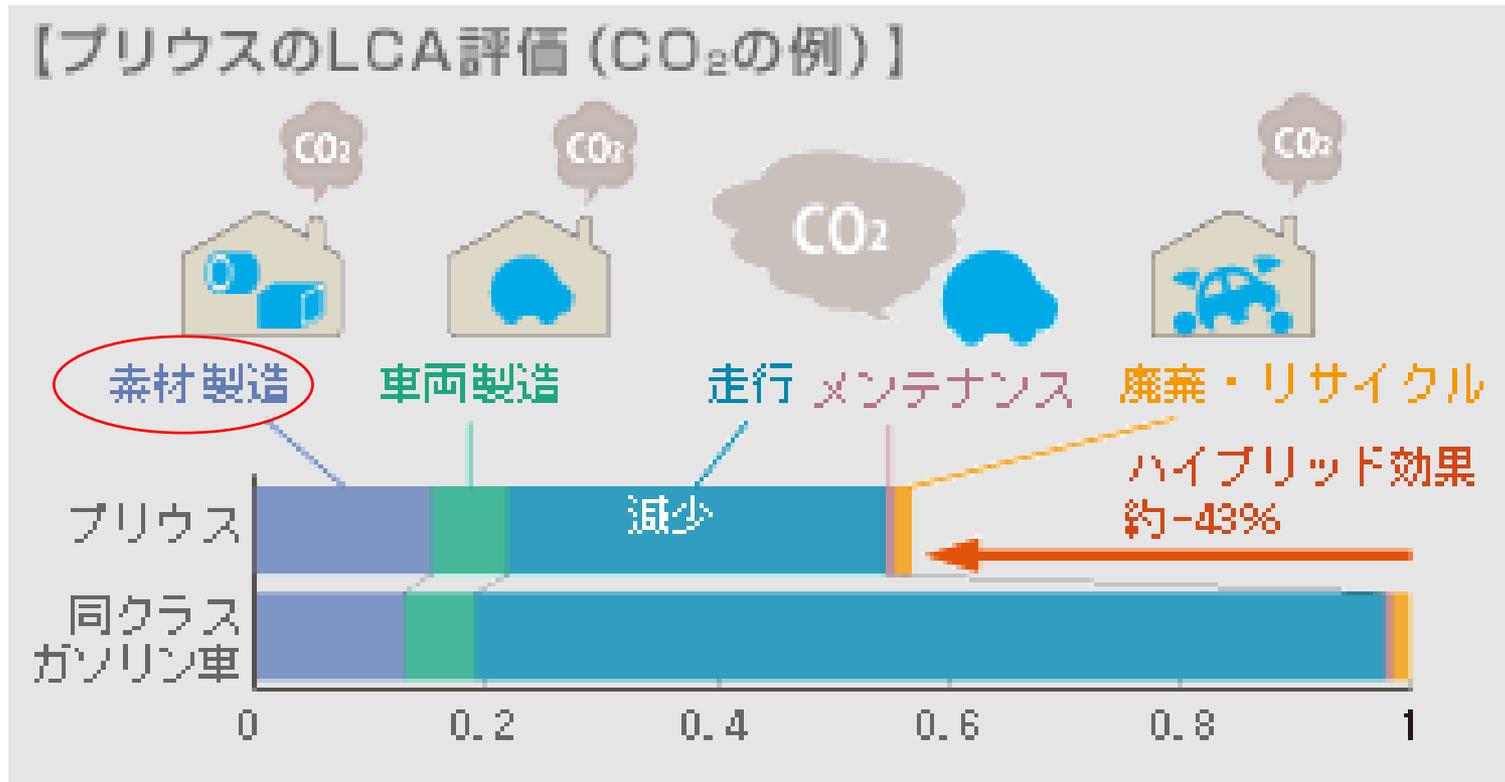
自助努力削減量
+ 国際協力削減量

- 技術普及・革新による削減は国際協力の下で進めるのが効果的
- 協力による削減量の帰属よりも、「協力の促進、拡大」が重要

エコプロダクト ～製品貢献

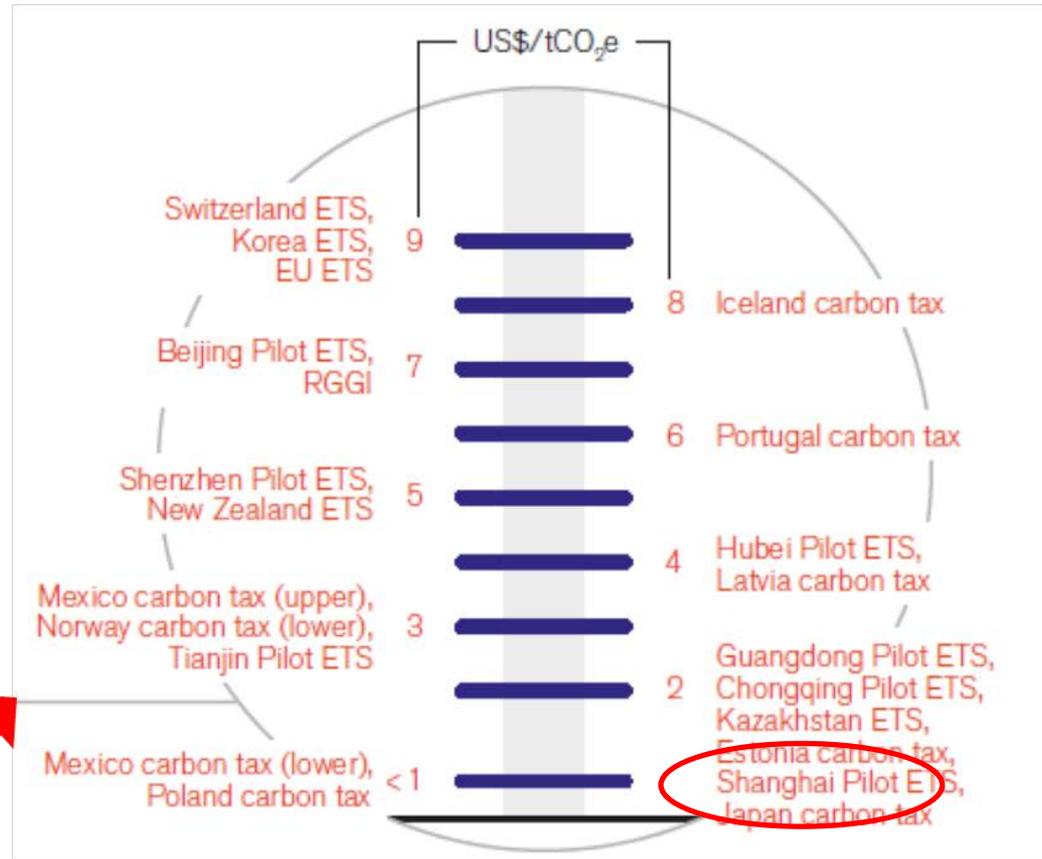
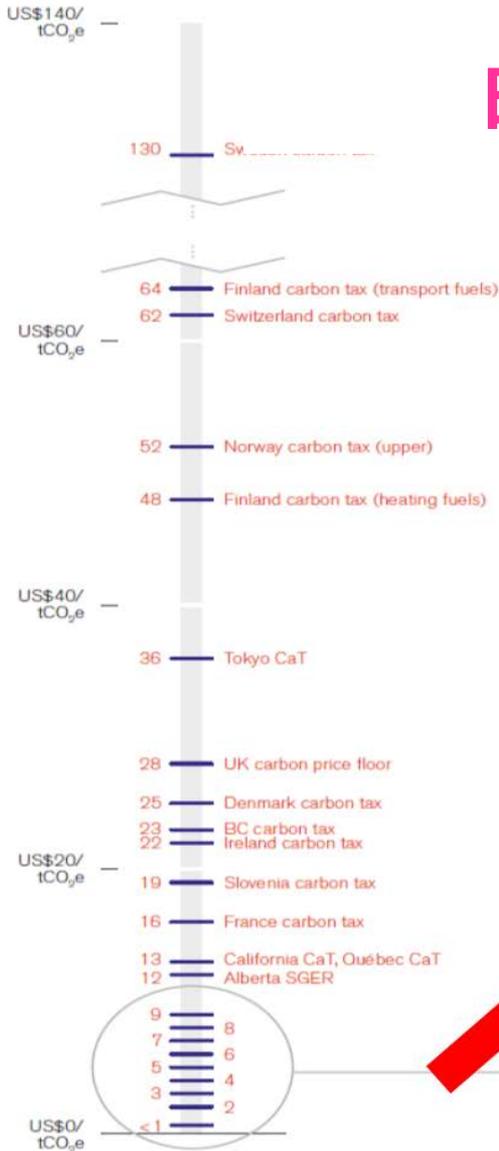
- 高機能鋼材の製造時においては、小ロット・多工程化により排出量は増加
 - 鋼材の優れた機能を活用することで、**使用時における排出量は大幅削減**
- ⇒ 素材から使用段階まで、各業界の取組みを適切に評価することが必要

鉄鋼使用製品の段階別CO2排出割合の例



世界の炭素価格 (WorldBank)

日本の炭素価格は\$2/t-CO₂??



出典: "Carbon Pricing Watch 2016" Worldbank Group, Ecofys

暗示的炭素価格

炭素価格＝
明示的炭素価格＋暗示的炭素価格

